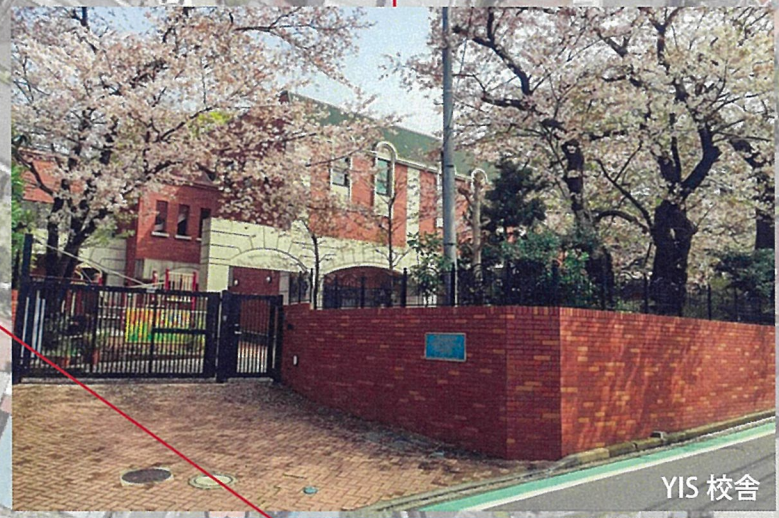


景観形成の方針 全体配置図と手法

- ①道路境界からの建物の引き・奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケール感を継承します。
- ②セキュリティラインを工夫し、歩行者空間の拡張により余裕のある地域景観に寄与します。
- ③周辺の公園等を結ぶように、既存と新植の緑のネットワークを繋ぎます。

● 主な既存樹木がアイストップとなる箇所
 - - - 緑のネットワーク
 — 各敷地セキュリティライン



景観形成の方針 敷地ごとの特性を踏まえ、山手の地の邸宅の雰囲気に沿う、デザインの多様性を現代の技術と素材で展開します。

A 敷地
景観上の
主要道路沿い
交差点に対して引きを取り、広いパブリックスペースを創出 雁行ボリュームの群造形



基壇部と最上階の2層構成 港の見える丘公園を取り込むガーデン



B 敷地
景観上の
主要道路沿い

F 敷地
景観上の
主要道路沿い
既存植栽を尊重し、周辺の緑と調和する外装・外構



建物の引きと奥行きを重視し、旧居留地の邸宅のスケールの継承



G 敷地
景観上の
主要道路沿い

C 敷地
ゲートと植栽で陣屋坂を修景する、コンパクトで陰影のあるボリューム



陣屋坂と擁壁の地形を取り込みつつ、明るく浮遊感のあるエントランスを演出



D 敷地

■ 前回都市美での意見：

- ・歩道を拡張するなど、道行く人々の入りやすさを工夫する事。
- ・交差点に面した部分のパブリック性を高める事。
- ・陣屋坂添いの圧迫感を軽減する工夫を行う事。

都市美審議会後の今回対応案

■ 今回の変更点：

- ・歩道沿いの外構要素をセットバックさせ、歩道幅を大きくします。
- ・交差点に面した奥行きのある大きな空地部分を広場状に整備し、ベンチなどを設置します。パブリック性をより高め、人々が入りやすく親しみやすい設えを整備します。
- ・陣屋坂沿いにおいて、地盤を低くしたり建物ボリュームをセットバックさせる工夫を行います。

外構要素をセットバックし、前面道路歩道を拡張しました。全体の緑地帯の広さは同等を保っています。

建物の手前と奥を繋ぐ軸：視線の抜けを大事にし、奥行きが感じられます。

既存の歩道範囲
新たに遊歩道として拡張する範囲

視線の抜けるラウンジ

視線の抜けるラウンジ

山手本通り越しにプラフ99ガーデンを眺めるベンチ

車寄せは北側に寄せ、交差点に面した広場の間口をより大きく確保します。

水景を眺めるベンチ

外人墓地进行を眺め、異国横浜山手の雰囲気を感じるベンチ

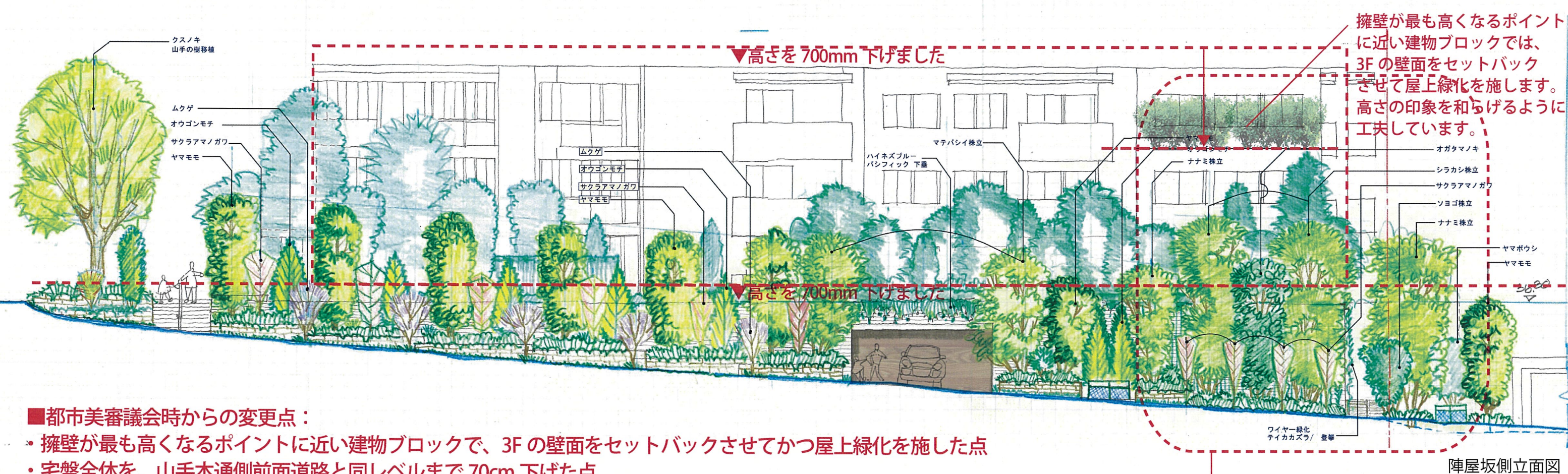
紅葉と花の四季を感じるベンチ

交差点を見返ししながら広場内での対話も生かすベンチ

陣屋坂沿いの擁壁について高さを70cm下げました。また、植栽可能範囲を拡張して確保し、圧迫感の軽減を行いました。

ベンチの整備など誰でも入りやすい設えの向上、憩いのオープンスペースの拡大を行いました。

開放した歩道拡張部分は、景観協議に基づく、どなたでも利用できるエリアであることを示すサインを設置します。



陣屋坂側立面図

■都市美審議会時からの変更点：

- ・擁壁が最も高くなるポイントに近い建物ブロックで、3Fの壁面をセットバックさせてかつ屋上緑化を施した点
- ・宅盤全体を、山手本通側前面道路と同レベルまで70cm下げた点
- ・C敷地との境界線付近の通路及び植栽計画を見直した点

A-C敷地間の、通路部分のルートを見直し、最短距離とすることで植栽の途切れを無くしました。陣屋坂を歩くどの角度からも、擁壁の存在感ではなく厚みのある豊かな緑を楽しめる散策路として整備します。

